

## 1-2-17 旧三島家住宅

岐阜県重要文化財（昭和47年12月13日指定）

白川郷一色村（現在の<sup>しろうかわちやういっしき</sup>莊川町一色）の豪農の住宅として宝暦13年（1763年）に建てられたものである。当初は<sup>よせむねしきいりもやがっしやうづく</sup>寄棟式入母屋合掌造りの<sup>かやぶきやね</sup>萱葺屋根であったが、明治11年（1878年）<sup>くれいたがききりつまやね</sup>樽板葺切妻屋根に改造されその後<sup>かわらぶきやね</sup>瓦葺屋根となり、昭和60年（1985年）現在地に移築された。また、江戸時代の<sup>めいわ あんえい てんめい</sup>明和・安永・天明にかけて<sup>ひだいちえん</sup>飛騨一円に起きた<sup>だいきぼ ひやくしやういっ</sup>大規模な百姓一揆「<sup>き おおほらそうどう</sup>大原騒動」における「<sup>きみんうわぎじんべいよりかた</sup>義民上木甚兵衛自賢」の<sup>せいな</sup>生家であり、父の<sup>はいじま わた</sup>看病に新島に渡った「<sup>こうしみしまかんざえもんまさひで</sup>孝子三島勘左衛門正英」の家である。

### 三島勘左衛門正英像

東京都新島村に、義民、孝子の墓として東京都史跡に指定されている孝子像の複製である。

新島のコーガ石を使い、平成7年11月、東京都新島村の村長以下15名の訪問団が莊川村を訪問した際に寄贈された。義民甚兵衛と孝子勘左衛門の遺徳を偲び、三島家住宅の傍らに安置されている。

平成7年11月15日

莊川村

説明板より